

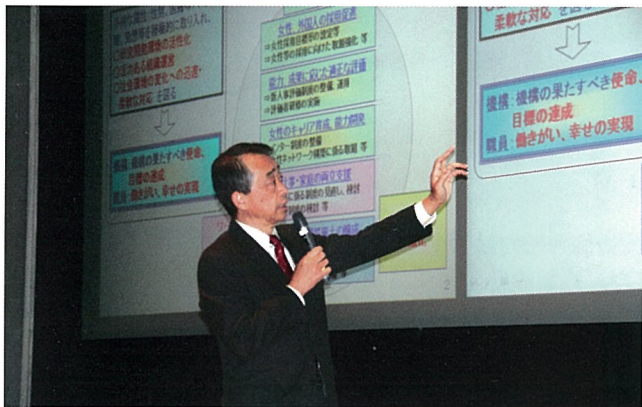
「JAEA男女共同参画フォーラム」を開催 —女性職員ネットワーク構築に向けて—

人事部

原子力機構は、平成20年3月に「男女共同参画推進目標」を定め、女性職員の採用やキャリア育成をはじめ、職場環境の整備、理解促進等の取り組みを続けているところです。

1月14日、テクノ交流館リコッティ（茨城県 東海村）において、原子力機構が取り組んでいる男女共同参画推進の一環として、「JAEA 男女共同参画フォーラム～女性職員ネットワーク構築に向けて～」を開催しました。今回のフォーラムは、原子力機構の男女共同参画推進委員会で、「女性職員が少ない中で、育児期間のワークライフバランスの情報がない」、「情報の共有、女性職員同士のネットワーク構築などが必要なのではないか」という意見が多く、このような声を受けて、女性職員のネットワーク構築のきっかけをつくるために実現しました。当日は、原子力機構の女性職員を中心に、100名以上の参加がありました。

開会にあたり石村 毅 特別顧問より、原子力機構の男女共同参画推進の取組状況について説明し、「今回のフォーラムでは、機構には活躍をされている女性職員がおり、世界に羽ばたいていく力があるということを実感してもらい、原子力機構の男女共同参画推進運動を盛り上げてもらいたい」というメッセージが送られました。



男女共同参画推進の取組状況について説明する石村 毅 特別顧問

講演の部では、(独)国立女性教育会館の久保 真季事務局長より、「研究機関における男女共同参画～女性のエンパワーメントに向けて～」という題目で、行政の立場から男女共同参画に関する講演をして頂きました。

講演では、他国および日本の年代別、男女別の統計的なデータにより、なぜ日本で男女共同参画を推進することが必要なのか、説明いただきました。参加者からは、「背景や日本の現状などを実感することができ、大変に有意義であった」との感想が数多くありました。

今後、男女共同参画を推進する組織として、制度の整備だけでなく、ライフ・ワーク・バランスを保ちつつ、いかに女性のリーダーを育成していくことが求められているということを再認識しました。そのために、女性職員がそれぞれの研究力・技術開発力・事務力を身につける環境、つまり、女性のエンパワーメントに向けた取り組みを行う

ことが重要となり、原子力機構では、意識を更に高め、男女共同参画に取り組んでいきたいと考えています。



久保 真季 事務局長による講演の様子

パネルディスカッションの部では、かつて原子力機構の男女共同参画推進委員会の委員であった本石 彩子氏を進行役とし、原子力機構の男女共同参画推進委員会の女性委員6名がパネリストを務めました。テーマは、「それぞれの男女共同参画のかたち～自分らしく、いきいきと働くために～」とし、参加者がそれぞれのキャリアコンピテンシー（自律的なキャリア形成力）やワークライフバランスなどについて考えるきっかけを得ることを目的としました。「仕事」、「家庭」、「ターニングポイント」などについて、これまで培ってきた経験、当時考えたこと、悩んだことについての率直な意見に、男女問わず参加者は、熱心に聞き入っていました。最後は、会場全体が、暖かい拍手につつまれました。参加者からは、「仕事を進める上で、家庭とのバランスの大切さに改めて気付かされた」、「このような先輩職員がいることは大変励みになった」などの意見が寄せられました。



パネルディスカッション

左から本石 彩子氏、中島 明美氏、井上 尚子氏、星野 淳子氏、石岡 典子氏、堂野前 貢子氏、柏木 美恵子氏

今回の男女共同参画フォーラムは、女性職員のネットワークを構築するための非常に良い機会になりました。原子力機構は、今後も男女共同参画を積極的に推進していきます。